



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>	
建物名称 (仮称)恩田原1-A街区物流施設建築工事	BEE 1.8 BEEランク A ★★★★★

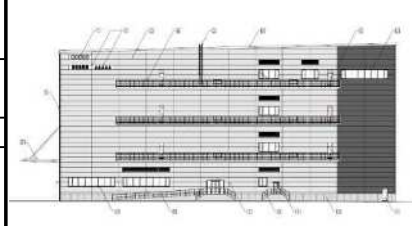
2. 重点項目への取組み度		重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
		"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.2	/5	よい
		"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5	ふつつ
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5	がんばろう
		"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつつ 3 点以上 がんばろう 3 点未満			

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>			<b>4.2</b>
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水 PEP(B)、排水 VP(B)、給湯 SUS(C)、Eは不使用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦BPI <sub>m</sub> = 0.69 ⑨BEI <sub>m</sub> = 0.00	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。 ⑫床: タイルカーペット、複層ビニル床シート、OAフロア。 ⑬LGSとOAフロアを使用している。 ⑬ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>			<b>3.1</b>
	■サージ性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰節水型器具を採用している。可能な限り配管の系統を区分し、災害時の使用不能部分の低減を図っている。災害などの停電時に飲料用等に使えるよう受水槽に水道の蛇口を設置している。	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		
	■サージ性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高: 3.9m以上。 ㉑(壁長さ比率) < 0.1。	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) 特になし。	Q-3 3 3.1	㉒ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>			<b>2.7</b>
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 2 3 3.2	㉓ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ㉔ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-3 2 2.2	㉕ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)恩田原1-A街区物流施設	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市恩田原・片山土地区画	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	2,997 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年4月5日
敷地面積	14,860 m <sup>2</sup>	作成者	田中 裕和
建築面積	8,052 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	29,971 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 86%

③上記+②以外の 52%

④上記+ 52%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4

#### LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。 CASBEE静岡2016年版による評価結果		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。 2.5% ≤ [昼光率]。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.7m以上。 階高: 3.9m以上。[壁長比率] < 0.1。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> = 0.69 BEI <sub>m</sub> = 0.00	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物に対して52%。 物件は燃焼設備を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される